

本校の研究主題 仲間と共に伸び伸びと主体的に学習に取り組む生徒の育成
～言語活動を充実させる学習形態の工夫を通して～
外国語科の努力点 「コミュニケーション活動を通して自己表現能力の基礎・基本の定着を図る」

1. 単元名 PROGRAM 7 「What Is the Most Important Thing to You」
(Sunshine English Course 3 開隆堂出版)

2. 単元について

(1) 単元観

本単元は、発展途上国を支援し、「宇宙船地球号」をたちあげて人材育成にも取り組んでいる、山本敏晴さんの活動について説明した文章である。その中の「お絵かきプロジェクト」を通して途上国の現実を見るとともに、自分の国に夢や希望をもって生きる子どもたちの描いた絵に込められた力強いメッセージから、本当の国際協力のためにできることは何かを考えさせることのできる単元である。

言語材料としては、主格の関係代名詞 **who, which, that** を取り扱う。人やもの、事柄を詳しく述べるために多用されるものであり、前単元の分詞と合わせ、これらの後置修飾を活用することによって英語表現の幅を大きく広げることができる。言語材料としては、学習指導要領の「エ (ウ) b 関係代名詞のうち、主格の **that, which, who**」にあたる。その使用場面としては、「b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面」にあたり、また、言語の働きとしては、「c 情報を伝える」の「説明する」「報告する」「描写する」にあたる。「話すこと」や「書くこと」の言語活動では、自分の考えや事実などを相手に適切に伝える力を身につけることを目指す。

(2) 生徒の実態

授業では意欲的に発表できる生徒が多く、互いに協力しながら学習に取り組むことができる。進路決定に向けて学習意欲は高まってきている。一方で、英語に対する自信をもてずにいる生徒もおり、全体的にも間違うことに対する抵抗感が大きい傾向にある。

事前に行ったレディネステストでは「ちばのやる気ガイド」をもとに、関係代名詞に関連し、疑問詞及び後置修飾における語順の理解度を確認した。疑問詞や前置詞については比較的理解度が高いが、不定詞や現在分詞を用いた後置修飾については、まだまだ演習を行う必要がある。

(3) 指導観

新出文法の導入に自作のワークシートを作成し、生徒がより興味関心をもてるようなトピックを設定している。また、単語テストやリーディングの達成度に応じてポイントを与えるようにしており、生徒がより意欲的に各活動に参加できるようにしている。

関係代名詞は中学生にとって難易度が高い英文法だが、多くの生徒に基礎・基本が定着してきている現状を踏まえ、発展的な知識にも触れていきたい。単元の最後には、自分の中学校について紹介する内容のまとまった英文を書き、既習事項を包括しておきたい。また、ALT と協力してスペルミスを細かくチェックすることで、達成感を高めたい。

(4) 研究主題との関連

本校の研究主題に関連し、授業内ではペアワークやグループワークを毎時間取り入れるようにしている。また、単元によっては理解度の高い生徒をリトル・ティーチャーとして起用し、リーディングの指導等に活用している。これらのことにより、主体性と協調性が育成できると考える。

また、外国語の努力点に関連し、学校紹介を行うことで、自己表現における書く能力と話す能力の基礎・基本の定着を図る。特に書く能力は、既習事項を活用しながら文字にして表現することで、思考力・判断力・表現力を最大限に発揮して行う言語活動と言える。

3. 単元の目標と評価規準

(1) 目標

ア 人やものについて、間違いを恐れず積極的に発表しようとしている。〈コ〉

イ 関係代名詞の主格を用いて、人やものについて詳しく説明できる。〈表〉

ウ 山本敏晴さんの活動について、本文の内容を正しく理解できる。〈理〉

エ 関係代名詞の主格を用いた後置修飾の文構造を正しく理解できる。〈知・理〉

(2) 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 言語活動において、間違えることを恐れず英語を話している。 〈話すこと（取組）〉	① 身近な人やものに関することをまとまりのある英語で表現できる。 〈話すこと（適切）〉 ② 既習事項を活用し、自分の中学校について紹介できる。 〈書くこと（正確）〉	① 本文の内容を正しく読みとることができる。 〈読むこと（正確）〉	① 関係代名詞を用いた文構造を理解している。 〈書くこと（知識）〉 ② 本文の内容を通して、本当の意味での国際協力について自分の考えをもつことができる。 〈読むこと（理解）〉

4. 指導計画（本時 6/7）

過程	時配	主な学習内容	評価規準（方法）	評価方法
見出す	第1時	関係代名詞の主格 who を用いて、 身近な人や有名人について説明する。 ／インタビューをする。	関係代名詞 who の用法を理解できる。〈知・理〉 人物について適切に伝えることができる。〈表〉	ワークシート 観察
調べる	第2時	PROGRAM 7-1 本文を読み、 山本さんの活動について読みとる。 ／個人で音読レースを行う。	本文の内容を正しく読みとり、音読することができる。〈理〉	活動の記録
	第3時	関係代名詞の主格 which を用いて、 秘密道具について説明する。 ／クイズをする。	関係代名詞 which の用法を理解できる。〈知・理〉 ものの特徴を適切に伝えることができる。〈表〉	ワークシート 観察
	第4時	PROGRAM 7-2 本文を読み、 子どもたちの絵に込められたメッセージを読みとる。 ／個人で音読レースを行う。	本文の内容を正しく読みとり、音読することができる。〈理〉	活動の記録
深める	第5時	関係代名詞の主格 that を用いて、 人やものや事柄について説明する。 ／個別にクイズに答える。	関係代名詞 that の用法を理解できる。〈知・理〉 人やものや事柄の特徴を積極的に表現しようとしている。〈コ〉	ワークシート 観察
	第6時 本時	PROGRAM 7-3 本文を読み、 お絵かきイベントがもつ意味について考える。 ／個人で音読レースを行う。	本文の内容を正しく読みとり、音読することができる。〈理〉	活動の記録
まとめ あげる	第7時	七次台中学校の紹介文を完成させ、発表する。	国際協力について自分の考えをもち、発表することができる。〈知・理〉 既習事項を活用し、紹介文を正しく書くことができる。〈表〉	活動の記録

5. 本時の指導

- (1) 目標
- ・関係代名詞の主格の用法を正しく理解できる。〈知・理〉
 - ・文法的な間違いを恐れず、発音やアクセントを意識して音読をしている。〈コ〉
 - ・本文の内容を正しく読みとり、音読することができる。〈理〉

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>Warm Up</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Greeting ● Words Test 	<ul style="list-style-type: none"> ・テンポよく行い、英語学習の雰囲気作りをする。 	単語テスト
10	<p>Review</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Paper-Go-Around <p>関係代名詞の主格 who, which, that について復習する。</p> <p>Mr. Kasai is a teacher who teaches us math.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項について生徒同士が確認できるようにする。 ○関係代名詞の主格の用法を正しく理解している。 <p>〈知・理〉 (ワークシート)</p>	ワークシート
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">Let's read the passage a lot!!</div>		
20	<p>Reading Practice</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Repeating 教師のあとに続いて読む。 ● Buzz Shadowing CDに合わせて読む。 ● Reading Race 1人3回読んだら座る。 1人5回読んだら座る。 ● DRAGON BALL Reading リトル・ティーチャーを立て、本文の暗記チェックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をしながら個別の発音をチェックする。 ・動きのある活動にし、間延びしないように注意する。 ・リトル・ティーチャーを事前に仕込み、練習させておく。 ○間違えることを恐れず、発音を意識して音読をしている。 <p>〈コ〉 (行動観察)</p>	教科書 ワークシート
10	<p>Comprehension</p> <ul style="list-style-type: none"> ● True or False 本文の内容を理解する。 ● Q&A 本文について英語の質問に正しく答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をしながら全員が活動に参加できるようにする。 ○本文の内容を正しく読みとり、質問に答えることができる。 <p>〈理〉 (活動の記録)</p>	ノート
5	<p>Conclusion</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Summary ● Preview 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習事項を確認し、次時の予告をする。 	

(3) 板書計画

Nov. 11 PROGRAM 7-3	True or False
Aim Let's read the passage a lot!!	1. T 2. F 3. T
different ←対義語→ same	Q1. Do the children's pictures tell anything that is important to them?
attention ⇒ pay attention	A1. Yes, they do.
action ← act → active	Q2. What will children learn through the project?
for a while ⇒ while	A2. They will learn some difference in the world.